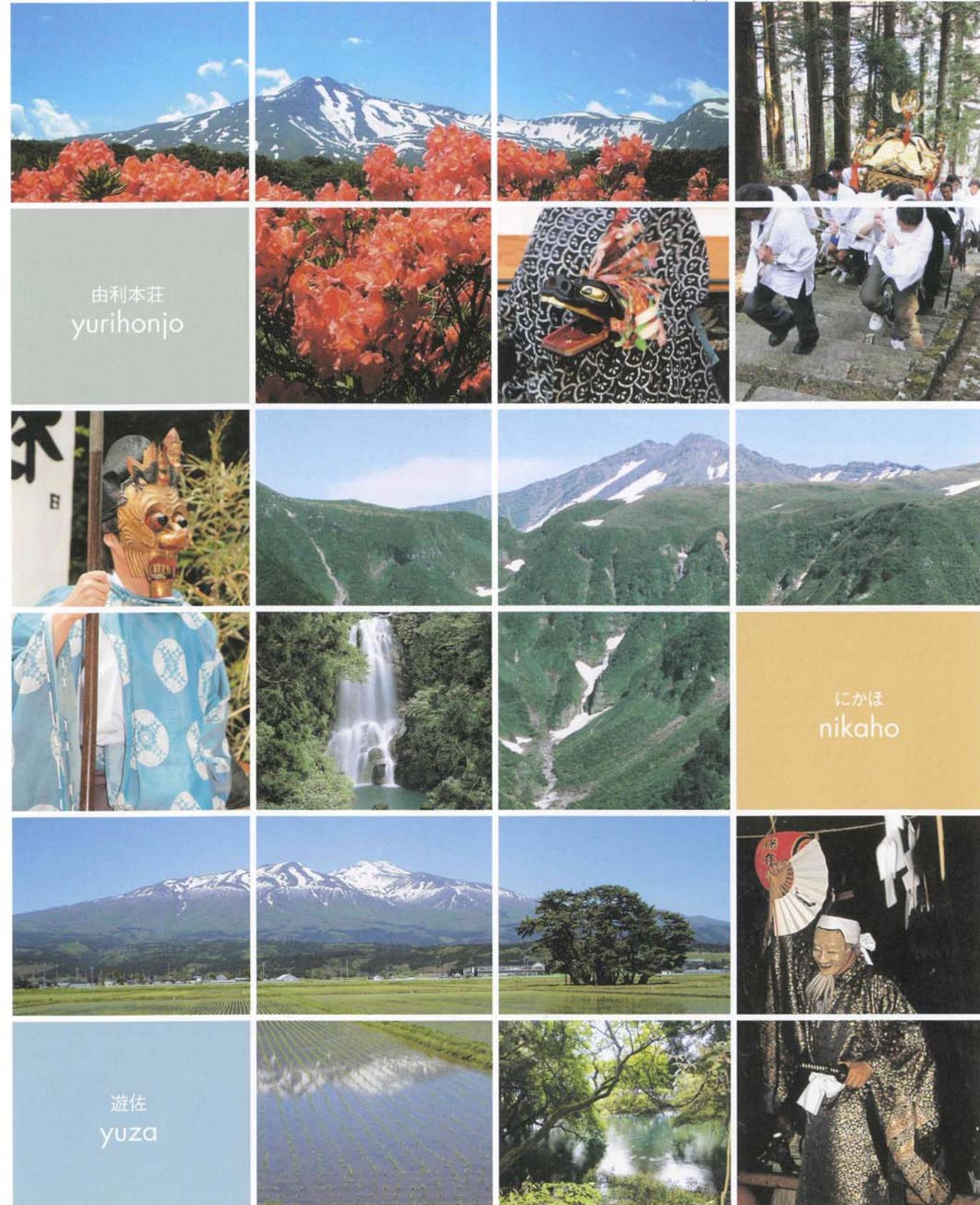


国指定史跡

鳥海山



山形県遊佐町

鳥海山大物忌神社境内

鳥海山大物忌神社は山頂に本殿が鎮座し、麓の吹浦と蕨岡に2つの口ノ宮がある。古代から現代まで変遷を経ながらも、山形県側における鳥海山信仰の最大の拠点を担ってきた。

遊佐町側の鳥海山中腹から山頂にかかる広大な山域と、麓の吹浦・蕨岡口ノ宮境内地、さらに、清流牛渡川のほとりにたたずむ丸池を含むすべての社有地が史跡に指定されている。

鳥海山大物忌神社本殿



鳥海山大物忌神社本殿（鳥海山頂）

山形県遊佐町側の鳥海山中腹から山頂にかけては国有林を除いてすべて鳥海山大物忌神社の社有地である。史跡の範囲は、かつての登拝道にあたる五合目付近から山頂を含む鳥海山中の広大な範囲（約891ha）におよぶ。

山頂本殿は、夏期間（7-9月）神社職員が常駐し奉仕している。この間、多くの観光客が鳥海山を訪れ、神社が運営する山小屋では参拝者とともに多くの登山客を迎える。

登山道の要所には信仰に由来する地名や石祠が残り、いまなお信仰の山としての鳥海山を身近に感じることができる。

鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮



鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮本殿

吹浦口ノ宮は、遊佐町の北西部にあたる吹浦地域の中心部に位置する。神社周辺には、かつて二十五坊、三太夫があり、宿坊集落を形成していた。現在も街並みには門前町の名残を留めている。

参道を北に進み、境内の石段を登りきると、拝殿があり、その奥の一段高い位置に玉垣に囲われた大物忌神と月山神を祀った社殿の構えが見える。

かつて吹浦口ノ宮は、大物忌神と月山神の二柱を御祭神とし

DATA

大物忌神社境内 面積:9,172,977.93m²
山形県飽海郡遊佐町吹浦字布倉1番1外

て祀り、長らく両所宮（両所大菩薩）と称されていた。現在も二つの社殿が同じ造りで立ち並んでいるのはそのためである。

鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮



鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮本殿

蕨岡口ノ宮は遊佐町の南東部、蕨岡地域から見上げる天狗森丘陵の一角、上蕨岡に位置する。

上蕨岡は通称上寺と呼ばれ、かつて鳥海修験道が隆盛を極めたころは、三十三坊を有する宿坊集落であった。集落内には大泉坊長屋門（国登録有形文化財〈建造物〉）などが現存し、その街並みにかつての姿を伺い知ることができる。

境内は集落のほぼ中央にあり、随神門（国登録有形文化財〈建造物〉）をくぐり参道をすすむと、ほどなく蕨岡口ノ宮本殿（国登録有形文化財〈建造物〉）が左手に見えてくる。当初は現在の場所からさらに約400段の石段を登った場所に建築されたが、昭和28年に現在の位置に移築された。

丸池

吹浦箕輪地区にある丸池は、鳥海山の湧水を水源とし、刻々と変わる水面の神秘的な姿が人々をひきつけてきた。

ほどには丸池をご神体とする、鳥海山大物忌神社末社、丸池神社がある。池の近くには清流牛渡川が流れ、秋には多くの鮭が遡上する光景がみられる。また、周辺には小山崎遺跡、柴燈林遺跡など縄文時代の貴重な遺跡群が点在する。

鳥海山大物忌神社の祭礼には物忌祭（2月・11月）、管粥神事（正月）、御浜出神事（7月）、蕨岡口ノ宮・吹浦口ノ宮例大祭（5月）などがある。

両口ノ宮の例大祭では、蕨岡延年（山形県指定無形民俗文化財）や吹浦田楽（山形県指定無形民俗文化財）が奉納される。

また、かつて鳥海山二之王子といわれた杉沢熊野神社では修験者が伝えたといわれる杉沢比山（国指定無形民俗文化財）が伝えられ、毎年8月6日、15日、20日の3晩、杉沢熊野神社境内にて奉納されている。



鳥海山大物忌神社文書（国指定重要文化財）（「鎌倉幕府奉行人連書奉書」右図「北畠顯信寄進状」左図）

鳥海山大物忌神社文書（国指定重要文化財）は、庄内地方最古の部類に入る古文書であり、吹浦口ノ宮の前身である両所宮（両所大菩薩）と当時の中央権力、有力者との関係を伝えている。



鳥海山大物忌神社文書（国指定重要文化財）（「鎌倉幕府奉行人連書奉書」右図「北畠顯信寄進状」左図）

